

伊勢 cha を cha んと飲む chance!

要旨

三重県は全国有数のお茶どころであるが、県内高校生のお茶への愛着度合いとその生産量が釣り合っていない現状がある。そこで、どうすれば高校生が伊勢茶に愛着を持ち、日常的に飲むようになるか考え、解決策を提案する。

1. 研究の動機と目的

私たちの班員の一人が伊勢茶に親しみを持ち日常的に飲んでいるが、まわりの高校生には伊勢茶の認知度が低く、飲まれていなかった。そこで私たちは、県内高校生が伊勢茶に親しんで日常的に飲んでもらえることができるかどうかについて検証することとした。

2. 方法

- ①全国茶生産団体連合会調査をもとにして文献調査を行う。
- ②三重県・静岡県・鹿児島県の高校生へアンケートを実施し、意識の違いを把握する。
- ③校内生徒に伊勢茶を無料で提供し、飲んだ感想についてアンケート調査を行う。
- ④有料でも伊勢茶を飲んでもらえるか、また持続可能な形で伊勢茶を飲む機会を提供することができるかについて検証するため、校内で有料のカフェを開催する。

3. 結果

- ①お茶全体の生産量は全国 3 位、かぶせ茶の生産量は全国 1 位であり、三重県は全国有数のお茶どころである事が分かった。
- ②三重県の高校生は静岡県や鹿児島県の高校生と比べ、日常的に地元のお茶を飲んでおらず、また自県がお茶どころであることを知らない高校生の割合が多かった。
- ③約 200 名の参加者があり、伊勢茶（かぶせ茶、深蒸し煎茶）に対して美味しいと答えており、また飲みたいという声がほとんどであった。
- ④有料の校内カフェに約 110 名の参加者があり、ほとんどがまた利用したいと回答した。また、有志で運営に携わった家庭部や茶道部等の生徒から、次もやりたいとの声があり、3月に2回目を開催することとなり、持続可能な運営が可能となった。



4. 考察

- ・校内など日常的に伊勢茶を飲む機会さえあれば、どの高校生も伊勢茶の美味しさを知り、日常的に飲みたいとなると考えられる。
- ・試飲会や校内カフェは、工夫次第でどの高校でも実施することが可能であり、高校生が伊勢茶を日常的に飲み続けることは機会を提供することで可能であると考えられる。

5. 結論

これらの取組により、高校生が伊勢茶を身近に感じ、郷土のお茶として愛着を持ち、日常的に飲むようになることが分かったことから、本校で実施したこれらの取組をリーフレットにまとめ、県内の高校に配布することで、さらに県内高校生への伊勢茶の普及を進めることができると考える。

6. 参考文献

- ・令和 6 年 3 月 三重県茶業の現状（一部抜粋） 参考人資料：全国茶生産団体連合会調査
- ・三重県はお茶どころ！～もっともっと伊勢茶を楽しもう～三重県農林水産部農産園芸課